

アスベスト無害化

東北大などが実証実験へ

08年度には
マニユアル

アスベスト(石綿)を

安全に無害化・再資源化する技術の開発に取り組む東北大多元物質科学研究所の葛西栄輝教授らの研究グループは24日から3日間、山形県の最上タリンセンターで初の実証実験を行う。新技術は既存の廃棄物処理装置を使用、コスト削減に加え、ダイオキシンなど有害物質の排出抑制が期待できるといふ。08年度中のマニユアル完成を目指して

いる。

研究グループによると、アスベスト廃棄物を無害化するためには、1600度以上の高温で溶かす装置が必要。さらに、アスベスト廃材はモルタルなどと混合されていることが多い上、混合の割合にはばらつきがあるため溶けにくく、操業が停止することが少なくない。東北地方で県の許可を受けている処理施設は、同センターなど2カ所しか

ない。

新技術は、焼却灰などを再資源化するための既存の装置を使用。焼却灰の処理過程にアスベストを混ぜ、溶剤として山砂や粘土を加えることで、1400度程度で溶融が可能になる。

従来のように溶剤として塩化物を用いないため、ダイオキシンや有機塩素化合物などの有害物質の排出を抑制。低温で処理するため、装置を傷めず安定的に大量の処理ができ、路盤材などの建設材料に再資源化できる。マニユアル化により、特殊な専門知識を持たない操作者にも処理が可能になるという。

研究グループの村上太一助手は「アスベストを大量に使用した建築物が老朽化する時期にきており、今後廃棄物は飛躍的に増えると予測される。処理技術のマニユアルが完成すれば安全な大量処理に役立つ」と話す。

アスベストは、長期間にわたり吸い込むと肺が繊維化する石綿肺や肺がんなどを発症する恐れがあ

り、社会問題化している。

【山寺香】